

日付	会場	時間	発表形式	番号	氏名	所属機関名1	演題名	
5月24日(金)	第1会場	10:10   10:50	一般演題1 (物理・治療計画)	O1-1	江本 裕樹	兵庫県立がんセンター放射線部	タンデムシリンドラーアプリーケータを用いた組織内併用腔内照射におけるinverse planningの有効性評価	
				O1-2	廣野 佑哉	神戸大学医学部附属病棟放射線腫瘍科	ニードル内マーカーと3D-T2WIを用いたMR Only Brachytherapyの実現可能性	
				O1-3	小森 慎也	総合南東北病院放射線治療品質管理室	最適化計算とモデリング機能を用いた線量分布を予測可能なIntra-preplan法の検討	
				O1-4	井上 達也	順天堂大学医学部放射線治療学講座	高線量率小線源腔内/組織内照射におけるインバースプランニングを用いた線量最適化の確立に向けて	
		10:50   11:40	一般演題2 (物理・システム開発)	O2-1	花田 剛士	慶應義塾大学医学部放射線科学教室(治療)	密封小線源治療装置Bravos™に対する治療計画の検証機構: ESAPIによるスクリプトの開発と独立線量検証機能の実装	
				O2-2	大谷 侑輝	大阪急性期・総合医療センター放射線治療科	SDGsに配慮したオリジナルファントムによる高線量率密封小線源治療のend-to-end試験	
				O2-3	秋野 祐一	大阪大学大学院医学系研究科	リアフレックスプラン及び統計モデルに基づく子宮頸がん腔内照射独立検証システムの開発	
				O2-4	岡崎 祥平	群馬県立がんセンター	説明可能なAI技術を用いた子宮頸癌の局所制御に寄与する小線源治療の線量評価指標に関する解析	
		13:00   13:40	一般演題3 (物理・品質管理)	O2-5	千葉 貴仁	国立がん研究センター中央病院放射線品質管理室	外照射併用婦人科小線源治療における患者個別線量管理ツールの多施設利用に向けた線量影響評価	
				O3-1	三塚本 隆宏	公益社団法人日本アイソトープ協会	井戸形電離箱を用いた <sup>192</sup> Ir密封小線源パッチ測定法の検討	
				O3-2	上田 悦弘	大阪国際がんセンター放射線腫瘍科	高線量率小線源治療装置における192-Ir線源の実効的移送時間と停留時間の多施設比較	
				O3-3	岡本 裕之	国立がん研究センター中央病院 放射線品質管理室	故障モード影響解析による小線源治療高リスク群のエラーの特性評価	
	13:40   14:30	一般演題4 (婦人科・症例報告)	O3-4	小島 徹	埼玉県立がんセンター	IGBT導入ガイドラインの現状と改訂の必要性		
			O4-1	藤岡 伝	筑波大学附属病院 放射線腫瘍科	腫瘍進展を伴う巨大な切除不能外陰癌に対して組織内照射を用いた化学放射線療法が有効な1例		
			O4-2	森本 莉裕	大阪国際がんセンター放射線腫瘍科	陰癌T4に対して組織内照射併用腔内照射後に陰壊死を認め出血と感染を繰り返し、かつ転移をきたす1例		
			O4-3	川畑 加奈子	京都府立医科大学附属病院放射線科	子宮頸癌に対して組織内照射後に腸間膜虚血からS状結腸穿孔を生じた2症例		
	第2会場	14:40   15:40	要望演題1: 症例からの教訓: なぜやる? やらない?	O4-4	村田 真澄	群馬県立がんセンター	腔内照射単独治療を施行した高度肥満限局期子宮体癌患者6例	
				O4-5	馬場 敬一郎	筑波大学医学医療系 放射線腫瘍学	子宮体癌再発に対する小線源治療後、Lenvatinib + Pembrolizumab投与直後に急速な陰壊死の進行を認めた1例	
				R1-1	小川 一成	自治医科大学附属病院放射線治療科	組織内照射併用腔内照射後8ヵ月後にニードル穿刺部近傍に仮性動脈瘤・出血が認められ、血管内治療による止血を行った症例報告	
				R1-2	高橋 彰夏	群馬大学医学部医学科	組織内照射併用腔内照射が有効であった巨大陰癌の1例	
		ポスターセッション	17:00   18:10	ポスターセッション	R1-3	馬場 敬一郎	筑波大学医学医療系 放射線腫瘍学	小線源治療を複数回施行後の難治性放射線性陰壊死に対して積極的な外来処置を行い完治した婦人科癌の2例
					R1-4	高川 佳明	福島県立医科大学低侵襲腫瘍制御学講座	大腸癌術後転移・直腸癌術後転移に対する小線源治療の経験(反省も含めて)
					P-1	高岡 祐史	彩都友協会病院	Real-time Virtual Sonographyを用いた画像同期組織内照射アプリーケータ刺入の初期経験
					P-2	水上 遼治	富山大学放射線診断・治療学放射線腫瘍学部門	婦人科腫瘍に対する小線源治療時の鎮静について
P-3					先田 浩二	医療法人財団明理会新松戸中央総合病院	新松戸高精度放射線治療(SMART)センターでの放射線治療	
P-4					小林 なおお	杏林大学医学部付属病院	婦人科癌小線源治療における診療体制の構築の初期経験	
P-5					池田 裕	滋賀県立総合病院	子宮癌術後再発に対する腔内照射の治療成績	
P-6					栗林 茂彦	東京女子医科大学病院放射線腫瘍科	マルチチャネルシリンドラーによる子宮頸がん小線源治療の初期使用経験	
5月25日(土)	第1会場	9:40   10:30	一般演題5 (婦人科・臨床)	P-7	飯島 康太郎	順天堂大学医学部放射線治療学講座	高線量率密封小線源治療用バーチャルファントムの開発	
				P-8	吉田 謙	関西医科大学総合医療センター	Single fraction palliative brachytherapyの初期経験	
				P-9	清水 友理	新松戸中央総合病院新松戸高精度放射線治療(SMART)センター	当院での小線源治療導入時における鎮痛・鎮静実施経験	
				P-10	西谷 昌人	東京都立大学大学院人間健康科学研究所放射線科学域	前立腺癌高線量率組織内照射を対象としたIntra-fractionにおける組織内刺入針の位置変化が与える線量変化	
		10:30   11:10	一般演題6 (婦人科・治療計画とモデル化)	O5-1	兼安 祐子	国立病院機構福山医療センター放射線治療科	症例からの教訓: なぜやる? やらない? 当院の組織内照射併用腔内照射経験	
				O5-2	中嶋 峻	京都大学大学院医学研究科画像応用治療学・放射線腫瘍学	シリンドラーアプリーケータを用いた腔内照射における陰腫縮小率と予後の関係	
	O5-3			齋藤 高	筑波大学 医学医療系 放射線腫瘍学	子宮頸癌根治照射例の中間評価MRIにおける腫瘍縮小率と予後の関係		
	O5-4			鳥 聖	神奈川県立がんセンター放射線治療科	6 cm以上の巨大子宮頸癌患者に対する放射線治療の治療成績: 組織内照射併用腔内照射を開始してから		
	11:20   12:10	一般演題7 (前立腺)	O5-5	小此本 範之	順天堂大学医学部附属順天堂医院放射線科	アジア原子力協力フォーラム (FNCA) における子宮頸癌に対する三次元画像誘導小線源治療を含む根治的放射線治療: 多国間多施設前向き観察研究の初期報告		
			O6-1	村本 耀一	順天堂大学医学部放射線治療学講座	局所進行子宮頸癌に対する組織内照射併用腔内照射における領域リンパ節転移とB点への線量蓄与の解析		
			O6-2	佐藤 啓樹	総合南東北病院放射線治療品質管理室	フリーハンドおよびVenezia/Genevaアプリーケータを使用した組織内照射併用腔内照射の線量分布比較		
			O6-3	リーウイグイー	東北大学医学部放射線腫瘍学	化学放射線療法を併用した子宮頸癌患者の無増悪生存率MRI-based Radiomics予後予測モデルの開発		
O7-1			伊勢 赤十字病院	伊勢赤十字病院	子宮頸がん経直腸エコーガイド下組織内照射針刺入の練習用ファントムの作成-日本女性放射線腫瘍医の会			
O7-2			高梨 将大	東京医科大学茨城医療センター放射線部	小線源治療部会将来計画小委員会ファントム作成チームからの報告			
15:10   16:00	一般演題8 (その他)	O7-3	奈良 健太	奈良県立医科大学泌尿器科	井戸型電離箱式線量計を用いた細包線源個数に応じた管理幅の検証			
		O7-4	久保 重貴子	徳島大学病院放射線治療科	細包線源個数に応じた線源強度管理幅超過比率の検証			
		O7-5	川上 正悟	北里大学病院放射線治療科	前立腺癌に対する低線量率小線源治療後の有害事象と回復までの期間についての検討			
		O8-1	小島 一将	群馬県立がんセンター放射線治療科	当院における高リスク前立腺癌患者に対する外照射併用小線源治療			
		O8-2	正岡 祥	大阪国際がんセンター	シード線源による前立腺治療後1年以内死亡時の抽出前立腺からの密封小線源の簡便な抽出方法の検討			
		O8-3	高橋 ひろみ	国立がん研究センター中央病院 看護部	当院の婦人科画像誘導密封小線源治療における人材育成方針の確立			
15:10   16:10	要望演題3: 小線源治療のArtとSkill	O8-4	高橋 良	国立がん研究センター東病院放射線品質管理室	高線量率小線源放射線治療における器具のスケジュール管理システムの開発			
		O8-5	川中 崇	徳島大学大学院 放射線医学分野	小線源治療で起こりうるエラーの原因分析-看護師の視点			
		R3-1	松本 秀樹	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	子宮頸癌に対するIGBTにおけるエビデンスベースの意思決定支援ツールの効果			
		R3-2	吉田 麻美	関西医科大学	小線源治療によるAPBIを地域連携で行うBra-Shiの取り組み			
		R3-3	宮田 裕作	久留米大学医学部放射線医学教室	頸癌の子宮頸癌に対しマルチチャネルシリンドラーを利用した1例			
		R3-4	萬馬 憲	東京医療センター	重積癌併発により外照射単独による根治照射が困難と考えられる症例に組織内照射を併用することで完全寛解を得た2例			
第2会場	13:30   15:00	要望演題2: 小線源治療を支えるネットワーク・コミュニティ	R3-5	谷口 彰人	三重大学医学部附属病院放射線科	久留米大学における高線量率密封小線源治療のArtとSkill		
			R2-1	木下 留美子	北海道大学病院放射線治療科	頸癌の腔内照射における伝統的線量分布と高精度治療計画の融合		
			R2-2	梅澤 玲	東北大学病院放射線治療科	ちょっとした材料でいつも創意工夫をしています 一子宮頸がん小線源治療-		
			R2-3	安藤 謙	群馬大学医学部附属病院放射線科	北海道大学病院放射線治療科関連施設における子宮頸癌に対する根治放射線治療に関するアンケート結果及び現在の状況について		
			R2-4	吉田 賢史	鳥取大学医学部附属病院放射線治療科	東北大学病院での婦人科腫瘍に対する小線源治療における関連施設との連携を円滑にするための取り組みについて		
			R2-5	中村 太祐	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター	婦人科放射線治療の県内webカンファレンスの実施		
R2-6	萬馬 憲	東京医療センター	鳥取県の小線源治療の現状、東部・中部・西部のネットワーク					

